

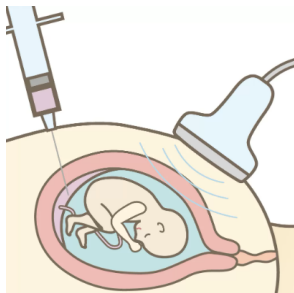
# 「出生前診断を受ける人が日本はなぜ少ないのか」

鹿本高校1年 千田凜音 中田涼香 西本真央 福島由花 松川瑠南

要旨 出生前診断にはいくつか種類があることや日本は受けている人が海外と比べると少なく、若い世代より高齢出産の方が多く受けていることがわかった。では、受ける人が少ないのにはどんな理由があるのだろうか、不安の原因とはなんだろうか。フィールドワークと文献調査で詳しく調べてみようと思う。結果としては、リスクなどもあることが受ける人の一番の不安だと思ふし病院自体がすすめていないことから受ける人が少ないと思ふ

※出生前診断とは、妊娠中に実施される赤ちゃん（胎児）の発育や異常の有無などを調べる検査を行い、その結果をもとに、医師が行う検査

※出生前診断の種類 形態異常・超音波（エコー）検査染色体異常  
・非確定検査・確定検査の2つがある  
→非確定検査・・・母体血清マーカー診断、コンバインド検査、新型出生前診断（NIPT）  
→確定診断・・・絨毛検査、羊水検査



絨毛検査（確定診断）  
胎盤のある絨毛組織を妊娠初期に絨毛細胞の採取をおこない、出産前に胎児の染色体異常や先天的な病気などを診断する検査。

引用元：「絨毛検査って何？絨毛検査の検査方法・費用・羊水検査との違いを解説」

## 【NIPT（新型出生前診断）】

- ・赤ちゃんを受け入れる準備が早くできる
- ・妊娠約6週から受けることができる
- ・お腹にしながらにして赤ちゃんに染色体疾患があるかどうか判明する
- ・妊婦さんへの体への負担がとて少ない

## 【絨毛検査】

- ・確実な検査結果がわかる
- ・早い時期に確定検査が受けられる（11週～14週）

## デメリット

## 【NIPT（新型出生前診断）】

- ・偽陰性の可能性がある

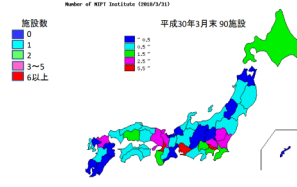
## 【絨毛検査】

- 検査に流産などのリスクがある  
（出血や破水、腹膜炎や感染症を起こすこともある）

## 研究背景

○研究の動機 将来、女性が妊娠や出産に関わる上で健康を保つための検査として出生前診断という言葉を知った。どういう検査なのか、詳しく調べたいと思った。また、出生前診断を詳しく調べていくうちに日本は受ける人が少なかったのでもその理由を調べていきたくてと思った。  
○海外の出生前診断の実施率 デンマーク90%以上 海外との費用の比較 NIPTの場合日本：約15～20万円 オランダ：約2万円（費用が少ない国はNIPTを保険適用にしている）

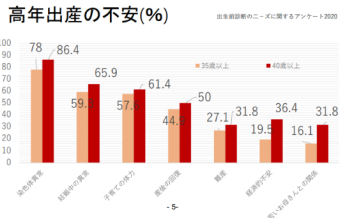
## NIPT認定施設：都道府県別施設数



## この資料からわかること

- ・ほとんどの県が1個しかない
- ・施設がないところもある
- ・1個以上ある県は全体に比べるととて少ない  
→受けることができる県が限られている  
→県に1つしかないことが多いからあまり受ける人が少ないのではないかと

引用元：厚生労働省「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」



この資料を見てわかること  
・全体を見るとどちらの年代も染色体異常が一番不安に思っている  
・35歳以上は経済的不安は低い40歳以上は高い  
→だから高齢出産をする人は出生前診断を受ける人が増えている

引用元厚生労働省「女性からみた出生前検査」

## 研究方法

文献調査 フィールドワーク（井上産婦人科）

## 結果・考察

〈フィールドワーク〉井上産婦人科様  
出生前診断は基本的にすすめてはしない  
→超音波検査で異常が見つかったときだけ検査を受けるかどうかの話がある  
受けることができる病院は大学病院しかなく、熊本は熊本大学病院しかない  
→専門知識を多く持った医師がとて少ないといけなから

〈メリット・デメリット〉  
メリット

## 〈わかる病気〉

先天性疾患（染色体疾患）・・・先天性疾患のうち染色体の変化によって起こる病気のことをいう。  
ダウン症候群（21トリソミー） 18トリソミー 13トリソミーの3つがある。  
ダウン症候群・・・21番染色体が3本になる  
（先天性の心臓の疾患・消化管の疾患）  
18トリソミー・・・18番染色体が3本になる  
（先天性の心臓の疾患・消化管の疾患）  
13トリソミー・・・13番染色体が3本になる  
（先天性の心臓の疾患・全前脳胞症）  
引用元：「先天性疾患（染色体疾患）とは」

## 〈考察〉

受ける人が少ない理由はメリットやデメリットが多いことや県に一つぐらいしか受ける施設が少ないからだと思ふ。また、不安の原因としては流産などのリスクや病気が見つかったときの相談機関などが少ないからだと思ふ。

## 今後の展望

今後は、デンマークと日本を比較しながら出生前診断についての探究活動を深めていく。私達の班では出生前診断について調べていくうちに検査を受けることを勧めないという考えが強くなった。だから、妊婦さんがもつ不安やその不安を取り除くためのカウンセリングはどのようなものがあるのか、検査を受けることに前向きに考えている人とそうでない人の違いを調べていきたい

## 引用文献・参考文献

<https://www.asahi.com/articles/ASPCZ5WWTQCQLBJ001.html> 「出生前検査そもそも女性が「選択」できる社会になっているのか朝日新聞」  
<https://www.hiro-clinic.or.jp/nip/maternal-serum-screening-test/> 「母体血清マーカーの特徴とNIPT（新型出生前診断）との比較」  
<https://dna-am.co.jp/media/2064/> 「法やリスク、メリット・デメリットを解説」  
<https://www.hiro-clinic.or.jp/nip/amniotic-fluid-test/> 「羊水検査とは？検査方法や費用などを解説」  
<https://www.hiro-clinic.or.jp/nip/nip-merit/> 「新型出生前診断（NIPT）」  
<https://dna-am.co.jp/media/437/> 「出生前診断の変遷」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000687364.pdf> 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」  
<https://nijiapan.com/nip/> 「新型出生前診断とは」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000696772.pdf> 「女性からみた出生前検査」  
<https://www.genetech.co.jp/disease/#disease> 「先天性疾患（染色体疾患）とは」  
<https://www.hiro-clinic.or.jp/nip/chorionic-villus-test/#:~:text=%E7%B5%A8%E6%AF%9B%E6%A4%9C%E6%9F%BB> 「絨毛検査って何？絨毛検査の検査方法・費用・羊水検査との違いを解説」